

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家篠路		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目1番7号		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0190201608-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームもえれのお家篠路」は創成川通りに近い場所に立地しており、大型商業施設やバス停にも近く生活の利便性が高い事業所である。室内は中庭を中心に1フロアに2ユニットがある造りで明るく解放感があり、冷暖房やリフト浴など設備面でも充実している。壁には季節を感じる温かな装飾が施されている。
 コロナウイルス感染拡大の長期化により外部との交流が難しい状況ではあったが、近隣の児童クラブ等との活発な交流を再開している。運営推進会議においても対面開催を行い、地域の方やご家族にも参加して頂きながら質疑応答や意見交換を行い、事業所運営に活かすなど取り組みを行っている。入居者と家族は感染対策をとりながら、いつでも安心した環境で面会する事ができ、外出や外泊もコロナ前のように行えている。法人内で身体的拘束適正化委員会を立ち上げ、定期的に役員会や委員会、全体研修を開催し、より質の高いケアが提供できるよう継続的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の石狩街道に近い2階建て2ユニットの事業所で、近隣に公園や小学校、大型商業施設、法人経営のパン屋もあり家族が訪問しやすい環境である。内部は天井が高く圧迫感のない作りで明るく、同フロアに2つのユニットがあり自由に行き来する事ができる。中庭の見える共有スペースのリビングダイニングは清潔に保たれ利用者が集う憩いの場となっている。法人は複数の介護施設を運営しており、協働体制が整っている。理学療法士の定期派遣による施術で利用者の身体能力の低下予防に取り組むサービスを行っている他、近隣に法人のグループホームが数棟あり災害時の応援体制も整っている。事業所の夏祭りに地元の飲食店に模擬店に参加してもらい、家族、利用者、来場者が交流をする事で、地域とのつながりを得る機会となっている。利用者の介護状況はパソコン上で管理されているが、職員全員が一人ずつ端末を常に持ち業務をすることで、情報共有をしながら業務を行っている。医療面では2か所の医療機関から定期往診があり訪問看護も利用している。歩行困難な利用者の入浴はリフトを使い、車いす利用者も湯船に浸かれ気持ちのよい清潔保持が行われている。職員は利用者の思いに寄り添い、家庭的で親しみやすい環境の中で、利用者の穏やかな暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の見える所に何か所かに掲げ共有し、その人らしい生活をご家族の協力を得ながら実践できるようにしている。	事業所内の要所に地域密着型の事業所としての理念を掲示し、研修の機会にも確認するため職員にも浸透している。利用者と家族へも利用開始前に説明をしている。日々理念に沿ってケアをしているか、カンファレンスで話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の児童クラブから敬老会用にプレゼントを頂いたり、町内会の清掃活動に参加する等、地域との交流を図る機会を設けている。	利用者の日用品や眼鏡、衣類などの買い物は地域の商店を利用している。事業所の夏祭りに地域の焼鳥店も加わり交流をしている。地域の子供が作成したものを貰う機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護施設としての認識はされ、入居相談や見学の問い合わせがあった際には、随時見学を受け入れている。事業所内の様子等を知ってもらう機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面開催だったが、対面での開催を再開している。ご家族等に取り組みや日常の様子等を報告し、意見や要望があった際にはサービス向上に活かせる用取組んでいる。	運営推進会議は今年度2回目より参集で行い、町内会長、地域包括支援センター、数家族が参加している。事業所の報告では行事、入居者状況や、構成員からの意見も含まれており、質問にはわかりやすく回答している。議事録は全家族に郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が対応している。生活保護の方を受け入れている他、認定調査やその他の手続等市担当者と連絡を取りながら、円滑に協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所から担当窓口へ主にメールや手紙を郵送したり、各種の提出書類の確認や連絡をしている。保護課に介護タクシーやおむつサービスの申請をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を立ち上げ、ユニット内から委員を選出し会議に参加している。定期的に勉強会を行い、職員が正しく理解出来るよう機会を設け、カンファレンスで意見交換の場を持ち、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	玄関は夜間のみ防犯目的で施錠し、両ユニット入り口は施錠をしているが別ユニットにも出かけることができる。指針に沿って3か月ごとに身体的拘束適正化検討委員会を開催している。さらに研修も今年度3回開催し、直近ではオンデマンド研修を職員が個々にウェブサイト受講している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修に参加する機会を持ち、事業所内でも勉強会を開催している。職員同士が意見を出し合い、虐待に関する正しい知識や意識を持ち、防止に努めている。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおり、その際に学ぶ機会があった。制度を活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者が対応している。家族の疑問や不安に対し十分に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には意見や要望があればお聞きし、またアンケートを配布したり、意見箱を玄関に設け、要望等があれば反映させている。	家族意見は主に運営推進会議の質問欄に書かれて来るが、来訪時や電話連絡で確認できた意見は端末に入力し職員全員が共有できるような仕組みとなっている。利用者の意見で家族に会いたい等の要望は、都度連絡している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を行ったり、カンファレンス等で意見や提案を聞く機会を持ち反映されている。	管理者との定期面談や日々の業務で出された職員意見は業務に反映させている。できるだけ個々の希望に沿ったシフトで勤務できるよう勤務日や有休の取得を促し働きやすい職場環境にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行い、職員が働きやすい環境や条件の整備に努めている。いつでも職員の希望や要望を伝えることが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部または法人内での研修会の情報を共有し、研修に参加できる機会を設けている。また、月一回の勉強会を開催しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のまたは法人内の研修会に参加する機会があり、他事業所との意見交換などを通じてサービスの質の向上を図れるよう取り組んでいる。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始する段階で本人から話を傾聴し、困っている事や要望を把握し、気持ちに寄り添いながら安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が、家族や本人との面談で、サービス開始にあたって不安に思う事や要望を伺い、解決できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中でご家族の要望や不安に思うことを伺いながら把握し、今必要としている支援を見極めている。サービス開始にあたって、不安なく利用できるよう適切に説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も介護される側の立場に立って考え、また家事などの活動と一緒にいき、共に過ごし支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や病院受診、本人の要望に対しての解決に向けて、家族に協力をして貰いながら、共にご本人を支える関係を築けるよう務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスが5類に移行してからは、知人の面会も可能となり交流する機会が増えている。葉書等での交流も途切れないよう支援している。	遠方の親戚や知人、馴染みの美容師が訪問している。通信の交流で支援をしている。家族が墓参に行く時の支度を手伝うなど、馴染みの関係を継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が隣りあうよう配慮し、職員が必要に応じて間に入り、会話を楽しみ、関わり合いが持てるよう支援している。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等があった際には、必要に応じて対応し、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握できるよう、家族や職員間で情報を共有している。困難な場合は会話や表情、行動などから本人本意に検討出来るよう努めている。	日々の会話で意向を確認しているが発語の難しい利用者は家族からの情報や表情でくみ取っている。端末に記録を蓄積し情報共有しながら希望する暮らしが継続できるよう支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っていたものを居室に置いたり、使用し、馴染みの暮らし方ができるよう、ご家族に協力して頂きながら、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援の中で、状態の変化や気付いた事を職員間で常に情報共有し、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中で適宜検討する機会を持ち、カンファレンスでも本人の意向や家族や関係者の意見を踏まえ話し合っている。現状に即した計画を作成できるよう努めている。	端末に蓄積された記録を参考にしながら利用者の評価を全員で行い、担当職員と計画作成担当者が中心になり3か月ごとの介護計画を作成している。利用者や家族の意見を取り入れ現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録端末を使用し、様子を情報共有している。職員間で意見を活発に出し合い、介護計画の見直しや日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にも生まれるニーズに対応しインフォーマルなサービスも活用しながら、柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。その人らしい生活を送れるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツサービスや訪問理美容、介護タクシーなどを必要に応じて利用している。地域のお店で買い物を楽しむ機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を確認しながら、訪問診療や専門病院の受診を行っている。適切な医療を受けられるように支援している。	2つの医療機関から往診を受けている。利用者が家族と通院する際はバイタル一覧を印刷して渡している。受診内容は端末に入力し記録を保存、職員で共有できるような態勢を整えている。	

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションが同じ建物内にある。週一回訪問看護師を受けており、日々の様子を伝え、必要に応じ適切な助言を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には利用者の情報を共有している。入院中も病院との連絡を取りながら状態の把握に務め、早期に退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何人かの入居者の家族とは、終末期の段階となった際の意向を伺っている。体調や状態の変化を家族と共有しながら気持ちに寄り添える対応を行っている。看取りの研修会にも参加し、不安なくチームで取り組めるよう環境を整えている。	契約時に「重度化に対する指針」を利用者と家族へ説明し同意を得ている。看取りに関して医師の判断に基づき、家族等と話し合い今後の方針を定め「看取りケアについての同意書」を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応法を研修に参加し身につけている。緊急時マニュアルをユニット内に掲示し、発生時には職員は速やかに医療機関や家族に連絡をとれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職場内に浸水マップや緊急避難場所の掲示をしている。また、避難訓練を行い避難できる方法を身につけられるよう取り組んでいる。	BCPを策定し、災害を想定した備蓄品を揃えている。災害時は町内会長や隣接する同法人から応援に駆け付ける体制が整っている。感染対策に配慮して今年度は未だ訓練を行っていないが直近で台風による浸水災害を想定した訓練を計画している。	今年度中に火災を想定した訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が言葉遣いや接し方に配慮しながら関わっている。また、排泄や入浴の介助の際には、羞恥心や自尊心に配慮した対応を行っている。	職員は研修で「高齢者の尊厳を守るとは」を学び利用者に失礼のない対応をしている。気になる言葉かけは職員同士が注意し合い適切な言葉を使うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれが希望する事を表出することができ、選択する機会を設け、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先していないか再検討し、業務の流れを見直ししている。一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望を尊重しながら、無理強いすることなく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、ご自身で衣類を選択して頂いている。自己決定が難しい入居者は、これまでの生活歴や好みを職員が把握しおしゃれを楽しめるように支援している。家族にも準備をしていただいている。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の要望を伺いながら、行事食や出前をとる等楽しめる機会を設けている。職員は、個々の嗜好を把握しながら毎日の食事を提供している。個々の状態に応じて、盛り付けや片付けなどを一緒に行う事が日常的にできている。	献立表と食材が届き、事業所で調理しているが利用者リクエストの食事に変更することがある。季節行事や誕生会に鮎を出前したり、夏祭りの屋台メニューや希望者にノンアルコールビールも提供するなど楽しみがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を介護記録システムに記録し把握している。個々の嗜好や食事形態などを把握し、一日を通じて提供できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、希望者は週一回歯科衛生士による口腔ケアを受け清潔を保持し、助言等を頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録しパターンを把握しながら、個々に必要な支援を行っている。	端末の排泄記録を確認し利用者の排泄パターンや頻度を検討し適切にトイレ誘導することで自力排泄を促している。おむつ利用者は夜間用、日中用と排泄用品を替えるなどの支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを把握している。排便の有無や状態を共有し、ヨーグルトや野菜ジュース等を提供し、便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や意向を尊重し、困難な際には時間や日にちをずらし入浴して頂いている。個々に寄り添った支援を行い、拒否があった際にも無理強いをしない関わりを行っている。	シャワーチェアやリフトを使用し、週1~3回楽しく入浴出来るよう入浴剤を使ったり好みの湯温で入れるよう支援をしている。入浴が苦手な利用者には無理強いせず、本人のタイミングで入れるよう言葉かけを工夫したり別日に変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠気が強かったり、本人の希望があった際には居室で休んで頂き、夜は静かな環境や適温に配慮し、気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はいつでも確認できる場所にあり、処方に変更があった際には、介護記録端末等で情報共有をし、確認出来るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、食器拭き等、一人ひとりの生活歴や家族からの情報を得ながら、本人にあった役割や楽しみを提供出来るよう支援している。			

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺を散歩したり、家族の協力を得ながら外出の機会を設けている。	個別の買い物に職員同伴で出かけたり、敷地周辺の散歩で近隣住民の花畑、公園やパン屋に出かけている。家族と百合が原公園や墓参に行ったり自宅で寛いで戻ってくる利用者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理が出来る方はいないため、個々での所持はしていないが、いつでも支援できる環境である。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話が出来る方は少ないが、要望があった際には支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は自然の光が入るようにしたり、室内の温度や湿度を調整している。また、季節が感じられるような装飾や、草花を置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	天井が高く明るい居間に利用者が集い好みの席でテレビを見たり計算問題や塗り絵、職員との会話を楽しみのんびりと過ごしている。パネル式暖房機、エアコン、加湿器で温湿度管理され居心地のよい清潔で過ごしやすい空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小リビングが設置され、一人でもゆったりと過ごせるようにしている。食事以外の時は決まった場所はなく、思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力していただき、使い慣れた物を用意し、思い出の写真を飾ったり、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	クローゼット、照明器具、介護ベッド、温湿度計が備えられた部屋に自宅で使っていた思い出のある品やテレビ、タンス、椅子などを置いている。壁にはカレンダーや日めくり、好みの写真を飾り居心地よく過ごせる居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をつけご自分の部屋がわかるよう工夫し、手すりを付けたり歩行の妨げになるものを置かないよう環境を整えている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家篠路		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目1番7号		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201608-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームもえれのお家篠路」は創成川通りに近い場所に立地しており、大型商業施設やバス停にも近く生活の利便性が高い事業所である。室内は中庭を中心に1フロアに2ユニットがある造りで明るく解放感があり、冷暖房やリフト浴など設備面でも充実している。壁には季節を感じる温かな装飾が施されている。
 コロナウイルス感染拡大の長期化により外部との交流が難しい状況ではあったが、近隣の児童クラブ等との活発な交流を再開している。運営推進会議においても対面開催を行い、地域の方やご家族にも参加して頂きながら質疑応答や意見交換を行い、事業所運営に活かすなど取り組みを行っている。入居者と家族は感染対策をとりながら、いつでも安心した環境で面会する事ができ、外出や外泊もコロナ前のように行えている。法人内で身体的拘束適正化委員会を立ち上げ、定期的に役員会や委員会、全体研修を開催し、より質の高いケアが提供できるよう継続的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理解したうえで法人の理念を踏まえ、事業所理念を職員で考え、玄関や事務所入口などに掲示し共有し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を行いながら、施設でお祭りを開催し地域の方に来店を出して頂いたり、保育園の園児が作成した飾り物をプレゼントして頂いたり、町内会の方々には運営推進会議を通して事業所の活動内容を報告し地域との関わりが途切れない様になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での入居相談や見学対応の際などに、お困りごとの解消に向け助言等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催しご家族・職員・地域の方に参加して頂き利用状況や活動内容を報告し、質疑応答や意見交換を行う事でサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が、利用状況や活動内容等を定期的に市町村担当者に報告し連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体的拘束適正化委員会を設置し、定期的に委員会会議を開催。身体拘束の理解・防止に努めている。また、外部研修に参加したりユニット会議で勉強会を行い日々のケアを振り返り不適切なケアに繋がらないケア方法の検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法について学び虐待に繋がらないケアに努めている。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修で権利擁護について学び理解したうえで、管理者・計画作成が、ご本人・ご家族に必要性を伝え必要な時に活用出来る様に働きかけている。現在、2名の入居者の方が後見人制度活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面・口頭などでお伝えし、疑問点や不安があれば、説明し理解・納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催しご家族・町内会・地域包括支援センターなどが参加し活動内容・利用状況などを説明し意見をお聞きし運営に反映させている。また玄関に意見箱を設置し要望・意見が言いやすい環境を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談の中で意見を聞く機会を設けているほか、日々の業務やカンファレンス等でも意見を述べられる環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談で職員個々の目標等を把握し、向上心を持って働けるようバックアップに努めている。コロナ禍の影響で給与水準は大きく上がっていないが、資格取得や研修参加への支援は受けられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得、研修参加機会は確保されている。職員一人一人に役割を持たせ、責任を持って業務を行えるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やリモート研修等で交流の機会は保たれている。得た情報を事業所でも活用しサービスの質の向上に活かしている。		

グループホームもえれのお家路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に管理者・計画作成が、ご本人に困りごとや不安な事をお聞きしサービスが開始になるまでに出来る限り安心できる関係性や環境作りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に管理者・計画作成が、ご本人の話をお聞きした上で、ご家族に困りごとや不安等をお聞きし、ご本人の気持ちと照らし合わせ、ご家族が安心できる関係作りを努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、他のサービスが必要な場合は、ご本人・ご家族にサービスの内容や必要性について説明し他のサービス事業所と連携し対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来る家事や作業など、入居者の状態に合わせて職員と一緒に出来る事で関係性を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの絆を壊さぬように、ご本人とご家族の意見や要望に大きな相違がない様に配慮に努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、馴染みの美容師の方に髪を切ってもらったりとコロナ禍前に行ってきた事を少しづつ取り戻している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように声掛けや介入を行う事で認知症状が違う入居者様同士が孤立せず支え合い生活を送っている。			

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する際に不安がないよう、ご本人やご家族に継続して相談や支援が出来る旨を伝え、他のサービス事業者と連携が図れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の何気ない会話から気持ちを汲み取り職員やご家族と情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・友人等から生活歴をお聞きし情報を把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態や生活リズム等を記録に残し職員間で情報共有し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者にモニタリングをしてもらい計画作成と話し合いユニット会議でモニタリングについて話し合い課題分析を行いケア方法を検討し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアコラボに心身状態を記録し職員が共有出来る様になっており、モニタリングやアセスメントに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化や医療支援などが多くなり、施設での生活が困難になった際は、ご本人・ご家族に話をお聞きし、その方にニーズに合ったサービスの提案を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や牛乳宅配など活用し地域との関わりを少しずつ増やしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の訪問診療受け心身状態の報告をし体調の変化に早期発見できる様よう努めている。また、ご本人・ご家族の要望があれば訪問診療の医師と相談し専門医への受診を行っている。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度、訪問看護看護師に心身状態の報告をし、指導・助言を受け訪問診療などの医療機関と連携が図れる様、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、医療機関と連携し心身状態を情報提供し、適切な治療ができ早期に退院が出来るよう努めている。また、入院中の状態や退院の際の心身状態の情報交換し職員と情報共有し退院後の支援に繋げている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで医療的関わりがどこまでできるかや終末期のあり方等について説明し、現時点での終末期に対する意向をご本人・ご家族からお聞きし記録に残し、職員・医療機関に情報共有している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内部研修を行い、救急対応等や応急処置について学んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練の訓練・研修を行い災害時に実践出来るよう力を身につけている。また、地域の方には災害時の協力体制が作れる様に運営推進会議や文書等で説明している。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の認知症状に合った声掛けを行い支援をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない言葉から希望・要望を汲み取り、その方に合った言葉かけし自己決定出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて個々が過ごしたい場所で過ごしてもらえるよう配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧品を使用したり、好みの洋服を自己選択や自己決定できる様、環境整備を行うなどの工夫をしている。			

グループホームもえれのお家路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人・ご家族から好き嫌いをお聞きし嫌いな物は代替品などを提供。また、職員と一緒に「盛り付けや食器拭きなども行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成するメニューに基づいて調理している。その方の状態に応じた食事形態を提供。水分量は記録で管理し、出来るだけ好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の出来る能力に応じて、声かけや準備など行っている。また週に一度、歯科衛生士による口腔ケアを実施し口腔内の清潔に努めている。また口腔内のトラブルがあれば相談し指導・助言を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄間隔を記録に残し排泄パターンをアセスメントしたうえで職員で検討しその方に合った排泄支援を行う事で失禁の回数を減らしトイレ内での排泄が可能となっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり、医療機関に相談・助言を受け必要に応じて下剤使用し便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず声掛けにて入浴する日を個々で決めて頂いている。また、入浴が楽しめる様に入浴剤などを使用し気持ちよく入浴が楽しめるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度・明るさ・体勢など状態や状況に応じて対応し安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤や副作用について職員が把握し体調の変化に早期に発見できる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、役割を持ち家事や作業活動、また趣味活動(手作業・音楽鑑賞など)楽しみながら気分転換の時間を過ごしている。		

グループホームもえれのお家篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人の感染対策について、ご本人・ご家族に説明したうえで外出の機会を増やし大切な時間を過ごしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をしたいと希望のある方はご家族の了承を得た上で少額自己管理している。時々、1階の自販機へジュースを買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方は使用方法が分からない時もある為、支援している。また、事業所の電話を使用しご家族・友人などと会話を楽しんだりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の温度・湿度・明るさ・テーブルの配置など工夫し集団の空間だけではなく個別の空間も作り自分の時間がもてるよう工夫している。また、季節の飾りやカレンダーなどで、季節感や日付の確認ができるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団が苦手な方には個別の空間を作り落ち着いた時間を過ごせるよう配慮している。またテーブルの配置も馴染みの関係性が築けている方と楽しい時間が過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物などを使用し居心地の良い環境を作っている。また認知症の進行に伴い物品管理等が出来なくなってきた方に対しては職員が介入し一緒に行う事で居心地の良い環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。階段とエレベーターがある為、その方の出来る能力によって使い分けている。居室には表札をつけ、トイレや浴室など共用部もドア部分にわかりやすく表示されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームもえれのお家篠路

作成日：令和 5年 12月 12日

市町村受理日：令和 5年 12月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 近年は様々な災害が発生しており、それらの状況を予想した災害訓練を行い、迅速に対応できる事が求められている。その中で台風や水害に備えた避難訓練を実施しているが、火災を想定した訓練が行われていない。	地域住民との協力体制を構築しながら、火災発生時には状況に応じた対応が速やかに出来るようにする。	地域住民、近隣の同法人の施設の協力体制を確認し、火災発生時には速やかに行動出来るよう訓練を実施する。	今年度中
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。